

3. システム開発

3.1. 開発について

開発には主として、html と perl を用い、必要に応じて JavaScript を使用している。

3.2. 授業評価システム

授業評価システムでは、受講した講義の評価と、授業評価結果の集計結果を閲覧が行える。

講義の評価は2.2で述べた6つの評価項目について、授業名と教員名を指定して5段階評価を行い、コメントを付け加える。

授業評価結果は、講義名・担当教員・開講年度・コース・講義区分・教職科目区分・単位数から講義を検索し、今までの評価結果を集計して表示される。

3.3. 履修計画支援システム

履修計画支援システムでは、学生は図2の順序で履修計画を作成する。

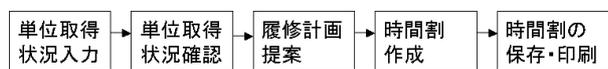


図2：履修計画支援の流れ

始めに、これまでの単位取得状況を確認する為に予め用意された単位一覧表から既に取得した単位を入力し、卒業までに必要な必修単位数・選択単位数を確認する。

次に、以下の情報を入力し、利用時まで蓄積された授業評価の結果と学生の嗜好(2.2で述べた評価項目と、それらの平均値)から、2.3で述べた条件を踏まえて履修計画を作成し、学生に提案する。

学生は提案された履修計画を確認し、それを参考に図3の時間割から講義を選択し、時間割表を作成、保存・印刷を行う。

3.4. システム管理機能

管理者は、利用者のアクセスログの閲覧と、時間割・講義情報の追加・編集・削除、及び、ユーザーの削除を行うことができる。

4. 形成的評価

教職課程を履修していない新4年生が利用する事を想定して、履修計画支援システムのプロトタイプを開発し、



図3：時間割作成支援画面

大学生3名を対象としてユーザビリティに関する一対一評価を行った。実験協力者には、履修支援システムで履修計画を立ててもらい、終了後に操作方法で分かりにくいところはないか、時間割を円滑に作成できたかなどを明確にする為にアンケートを行い、その結果を元に改善を行った。改善後に教職課程履修者と新4年生以外の利用に対応した完全版を開発した。

5. おわりに

本研究では、Web上での授業評価システムと、評価結果を利用した履修計画作成を支援するシステムを開発した。今回は、岩手県立大学ソフトウェア情報学部学生による利用に限定してシステムを開発したが、他の学部でも活用できるよう発展させていく事と、システム管理機能に対する評価を行い改善する事が今後の課題である。

参考文献

- 1) 恒河沙 2002 年度夏学期号,東京大学時代錯誤社(2002)
- 2) 岩手県立大学 授業に関する調査 平成 15 年度後期,岩手県立大学(2002)
- 3) Web を利用したリアルタイム授業評価システムの開発と運用,大塚一徳,八尋剛規,光澤舜明・日本教育工学会雑誌 24 p109-114(2001)
- 4) ソフトウェア情報学部 学生便覧 平成 14 年度版 p26-32 (2001)